

「介護・健康管理に向けた住宅づくり」シンポジウム 2019 後援報告

2019年11月30日（土曜）表記シンポジウムが LABI1LIFE SELECT 高崎 LABI GATE にて開催されました。NPO WBN では上記シンポジウムへの開催後援を通して支援しました。以下はその開催支援報告です。

シンポジウム：第4回 新しい医療・介護のテクノロジー シンポジウム

「介護・健康管理に向けた住宅づくり～家族に優しい家を造るとき～」

開催日時：2019年11月30日（土）、p.m. 1:00～5:20

開催場所：LABI1 LIFE SELECT 高崎 4階 LABI GATE（〒370-0841 高崎市栄町1番1号）

主催：認定NPO 法人 バイオフォーラム

共催：群馬大学、前橋工科大学、株式会社ヤマダ電機

後援：群馬県、前橋市、前橋商工会議所、上毛共済生活協同組合

NPO 法人 ワイヤレスブレインネットワーク、NPO 法人 北関東産官学研究会

株式会社 上毛新聞、群馬テレビ株式会社、株式会社ヤマダホームズ

シンポジウムは主催世話人・野村教授（前橋工科大学システム生体工学科：以下、工科大と略称）よりの開催挨拶に続き、群馬大学・平塚浩士学長（花屋副学長代読）および工科大・星学長の来賓挨拶がなされて開始され、群馬大学名誉教授 土橋邦夫上武呼吸器科内科病院病院長の座長のもと基調講演が始まった：

最初の講演は王青躍・埼玉大学大学院教授より「室内空気汚染、花粉症、その抑制について」と題してなされた。特に花粉症が発症するための花粉の詳細な変化（破裂）プロセスの解説と発生源とそこから遠く離れた場所での花粉症症状が異なることや遠方でも発症する理由の説明にはとても興味を誘われた。

それに続き5つの招待講演が野村・工科大教授の座長の下になされた。最初は原川・(株)カッホ代表取締役、大野・高健大講師による「歩行から造る健康な体と支援ツールとしての健康インソール」と題して、歩行の状態を検知して転倒などの危険を予測するインソールセンサーセットを開発したとの報告であった。次は東福寺・高健大教授による「介護・健康管理における遠隔医療～遠隔医療に対応した住宅造り～」と題して、遠隔医療の現状とこれから解決しなければならない課題の洗い出し、更に在宅医療が実現できるための一般住宅に必要な設備等についてのサーベイが報告された。この後20分間のコーヒーブレイクがあり3時35分より3件の招待講演がなされた。3件目は三田村・工科大建築学科准教授による「住宅における室内環境と健康管理～熱・湿気・空気の環境管理から～」で、健康に過ごせるための住環境を熱・温度からヒートショックについて、また湿気についてはカビと喘息、アレルギー性鼻炎からの視点、更に空気に関しては花粉症などとの関連について報告された。次いで志賀・関東学院大学建築・環境学部教授より「よく生きる「私」の住まい考」と題して“家・住宅と介護”の問題を“介護する側”からみた健康に良い住環境と云う視点から紐解き述べられた。介護する側・される側どちらにとっても、住居の中に置かれている日常の小物類の佇まいのようなものが心の平安にとって貴重な存在のようだ。シンポジウム最後の講演は増田・株式会社ヤマダホームズ代表取締役社長により「住宅における空気質改善への取り組みとその成果」と題して同社が開発した木炭塗料“Wellness Air：ウエルネスエア”の微弱電流通電による空気清浄効果とNK（ナチュラルキラー）細胞活性化の産学連携研究成果が報告された。

講演終了後、土橋・NPO 法人バイオフォーラム副理事長より閉会の辞が述べられ、シンポジウムを閉会した。なお、p.m. 5:30 より意見交換会が5階 LABI BANQUET 高崎にて開かれ多数の参加を得て和やかなうちに進んだ。p.m. 7:30 NPO Wireless Brain Network 堀越理事長の挨拶で終了し解散となった。

（NPO WBN からの出席者：岡田、西本、今村、堀越各会員）